

## 海の講座「吉野川河口干潟の生き物と保全活動」の記録

日時 2019年6月20日(木) 8時20分～18時30分 (集合・解散～JR神戸駅)

場所 徳島市 吉野川河口干潟の保全状況と生き物観察

参加者 21名 向井先生、和田先生、井口先生、  
(海の講座生22名)

活動 梅雨の時期にもかかわらず、全くそれを感じさせない好天のもと、JR神戸駅に集合の後、MKバスで眉山山頂展望台を目指して、総勢46名で出発した。

バスの中で、和田恵次先生から、吉野川河口に生息しているシオマネキ・ハクセンシオマネキ・チゴガニ・ヤマトオサガニ・コメツキガニなどの、ウェーヴィング(ハサミ降り行動)の特徴や、巨大なハサミの謎、交尾の仕方などについて、とても分かりやすくユーモアを交えての説明を聞きながら、はやくそのカニたちに会いたいと思った。

眉山山頂展望台には、予定通り11時過ぎに到着し、吉野川河口干潟案内をして頂く、井口利枝子先生から、吉野川河口干潟の説明と、井口先生が所属されている「とくしま自然観察の会」(1994年設立)における、さまざまな干潟保全活動や課題などについてお話をいただいた。

昼食後、眉山山頂展望台を後にし、いよいよ待ちに待った吉野川河口の干潟へ向かった。

13時から14時40分まで、和田先生の身振り手振りを交えた説明を伺いながら、カニたちの観察をした。実物を見て、和田先生の説明がさらに、なるほどと実感できた。個人的には、コメツキガニの雌雄の区別ができるようになり、とても感激した。(レベルは低いのですが・・・)1時間40分の観察会は、あっという間に終わった。

観察の最後は、吉野川河口の左岸にあたる、小松海岸での、「サーフィンをする貝」と呼ばれる、フジノハナガイの観察をした。サーフィンをする貝とはどんな貝なのだろうかとしばらくその様子を見ていて納得できた。みんなが、その小さな貝の行動を時間の経つのも忘れて観察した。

15時50分神戸に向け、出発した。途中のサービスエリアで買った、「淡路ビール」の味は格別であった。予定通り、18時30分神戸駅で解散。

